

第 57 回 基本（新春学長メール Vol.3）

おはようございます。
長崎大学人 河野茂です。

今回も沢山の前向きなメールを頂いております。
新年から元気を頂き、感謝しております。

さて、また、書道の話です。
今回の文章を書くにあたり、書道家の杉浦妙子先生（号 華桂）の著書『入門 日本書道史』を読ませてもらいました。
この本によると、紀元前後に文字が中国から伝わったそうですが、その前に倭文字があったという説もあるようです。
いずれにしろ、中国から伝わった文字（主にお経）を写して文字を真似て練習したようで、奈良時代には写経の実技試験も行われたということですから、
お手本を写すという書道のスタイル（臨書）は文字が入ってきた初期からあったようで、今もそれが続いているようです。

私も数冊の教科書を使っており、お手本をまねて文字を書きます。
最近では、楷書のお手本は九成宮醴泉銘、行書は蘭亭序を使用しています。
もちろん、このお手本の元は、昔の中国の優れた書道家が書いたものです。
最近では、技術が発達して、古い石碑の文字などを写真にとり精巧な手本に仕上げるができるようになってきています。
デジタルが発達すると、アナログの書道を練習する人にとってはいい時代となるという不思議な現象が起きています。

私は、週に一度は、先生について教わり、指導を受けます。
上手にお手本を真似たつもりでも、先生の朱筆で、いろんな部分をチェックが入ります。
その度に書き直しをします。ときどき、まあ、これくらいで良からうと思いますが、先生は容赦しません(笑)。
なかなか忍耐と根気のいる道です。さらに、頑張って、年に最低 1 回は発表会へ出すように努力しています。

仕事も書道も似ている側面があります。
私の新人（研修医）の頃は、なにがなんだかわからず、ただただ先輩の真似をするということが続きました。

医者は、一人前になるのに 10 年かかるとよく言われますが、その通りだと思います。
先輩の技術や話し方を真似て、知識を蓄えて、ようやく自分のカラーを打ち出せるのが、10 年経ったくらいからです。
私の育った時代は、徒弟制度の厳しい時代だったので、医者の基本を叩きこまれたという感じでした。
しかし、振り返ると良かったと思います。ある一定の型を繰り返し根気よく続けることでしか基礎、基盤は築けないと思います。

良いお手本を真似て繰り返し練習する、良い先輩について繰り返し基礎を学ぶ。

書道における、お手本をまねて書く＜臨書＞には形臨、意臨、背臨の三種類があります。
形臨は形をまねる、意臨は作者の意図をくみ取る、背臨は作者の書風を自分に取り込み、手本をみないで書くことです。
医者の教育方法と似ていますね。おそらく、すべての人材育成の方法と同じだと思います。
ですから、書＜道＞なのでしょう。

基本を軽視するところに成長はありません。
また、基本が一番難しい。文字でいうと『一』『大』などは、シンプルですが、非常に難しいのです。
ごまかしが効かない。ある意味、実力がすぐにわかる。だから、今でも、基本を繰り返す。
仕事も同じだと思います。
医者の基本は、なんといっても患者さんとの対話です。どんなに偉くなっても、それを怠ると大きなミスへつながります。
それぞれの仕事に、欠かせない基本的な事項があるでしょう。それは、代々の先輩から引き継がれて、写されてきたものです。
非常に大切なものと思います。先人への感謝も忘れてはいけません。

スポーツや勉強、研究や仕事では、基本や基盤があった上に、思い切った展開や新しい発想が生まれると思います。
私もポンペ先生以来、160 余年続く、医師としての基本の考え方を基に、先輩方の仕事を真似た後に、自分のオリジナルを出しやってきました。
もしかすると、私の仕事を真似た後輩もいたかもしれませんが、それは、引き継がれて写されてきたものです。

私の任期もあと 1 年と 9 カ月。
大切なことは、後人が写せるようにしっかりと仕事を残し、私の代で片付けるべきことは、

責任を持ってやり遂げたいと思います。

もちろん、基本を忘れずに、毎日鍛錬しながら、最後の日まで皆さんと一緒に、前に前に向かって行きたいと思います。

みなさんが、家庭において、仕事において、人生において基本や基盤としていることは、何でしょうか？

ぜひ、お気軽に、前向きなメールをお待ちしております。